

育ネットつなん

津南町教育委員会

育ネットつなん事務局

保小連携で、保育園と小学校がつながる！！

津南小学校 校長 江口 正洋

「小1プロブレム」の解消を目指した取組として、年間を通じて保育園との連携を行っています。1年生の学級に5歳時を担任していただいた保育士さんたちから来ていただき、授業参観で気づいたことを、町の保小連携担当者、訪問相談員、臨床心理士を交えて、1年担任、特別支援コーディネーターとで意見交換します。

また、7月には、保育士さんの小学校体験を、8月には小学校教員の保育園体験をそれぞれ実施。保育園で行われている指導や支援を小学校教育に生かすこと、小学校教育の中で保育園が事前に取り組めることなどをそれぞれが吸収して、新入学児童へのきめ細やかな支援に役立てています。何よりも、保育園でお世話になった担任の保育士さんの前で、「1年生」としての姿を見てもらうことは、大きな自信に繋がっています。



保小中のなめらかなスライドアップを

子育て連携専門員 内山 喜代子

子どもたちの「育ち」や「学び」が滑らかにスライドアップできるように願い「保小中連携推進計画」を作成しています。主な計画内容は「子ども同士の交流」「職員同士の交流・職場体験」です。この取り組みを通して、双方の理解や協力を得ながら、次へとステップする「学びの場」や「生活の場」が子どもたちにとって、より良い環境になるように進めています。

わかば保育園保育士
芦ヶ崎小学校で教諭体験
「給食を上手に盛り付けていま
した。」



こぼと、ひまわり、
北部保育園保育士
津南小学校で教諭体験
「みんな、きれいな字を書けて🌸!!」



上郷保育園保育士
上郷小学校で教諭体験
「担任の先生の話をよく聞いて
いました。」



津南みらい教室



活動を終えて・・・

6年生と中学1年生の感想



7/9（木）、10（金）の2日間、マウントパーク津南にて『津南みらい教室』が行われました。

例年、2泊3日で行われていた「津南みらい教室」は新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から宿泊を伴う活動は行わず、日帰りでの活動を行いました。

『津南みらい教室』は、町内小学校6年生が津南町の恵まれた自然環境で自然体験や生活体験をともにすることを通し、中学校入学時の円滑な人間関係の素地をつくることを目的とし、また、津南中学校の1年生は、後輩に対する言動、態度を考え行動しながら、ソーシャルスキルを身につけることを目的としています。

2日間の活動は、イングリッシュ・アドベンチャー様の指導のもと、全て英語での活動が行われ、英語学習に興味と意欲を高めることができました。



ボルダリング

上郷小学校 島田 萌菜

私は、みらい教室に行きました。最初は友だちが出来ないと思っていました。だけど、ことちゃんが声をかけてくれてから勇気が出て、他の子に私から声をかけました。

仲良くなったそらちゃんと中学校で同じクラスになったらいいなと思いました。そして、ローロープスなどを一緒に協力してやりました。そこで、助け合いが出来てよかったです。このみらい教室で7人以上の友だちが出来ました。

昨年とは違って日が短かったり、泊まれなかったりしたけど、そのことを乗り越えてここまで仲良くできることは、自慢です。貴重な体験が出来てよかったです。

津南中学校 中島 幹太

小学生と一緒に活動して、最初は緊張してとても静かだったけれど、だんだん話せるようになって、みんなと仲良くパイレーツをすることができました。説明は、少しとまどってイングリッシュ・アドベンチャーの人に助けってもらうことがたくさんありました。練習のようにうまくいかなくてとても困りました。

でも、小学生に分かってもらうために変な英語も言いながら何とかルールを伝えることができました。小学生とも仲良くなれたので良かったです。

みんなが中学校に入学するのが楽しみです。

芦ヶ崎小学校 南雲 優

うまく英語を話せるようになりました。また、他の小学校の人とも仲を深められたのでよかったです。

ゲームでは、ローロープス、カヤック、ボルダリングを班で協力することができました。

芦ヶ崎小学校 野田 実由

2日目は、カヤックをやりました。2班と6班のみんなと協力して円を作りました。とても難しかったけれどみんなが協力したのでできました。グループ目標は「協力する。仲良くする。」でした。みんなと協力したり、仲良くできたのでよかったです。

個人目標は「友だちをつかって、英語を話せるようになる。」でした。友だちをつくることはできたけれど、英語は、あまり話せませんでした。でも、英語は、理解しているところとしていないところがありました。

カヤック



津南小学校 福崎 結夏

私は、みらい教室で楽しかったことが3つあります。1つ目は、ボルダリングです。みんなと協力しながらゲームをしたり、たくさんあるコースを選んでコンプリートしていったりと、つかれたし、うでも痛くなっただけどとても楽しかったです。

2つ目は、カヤックです。最初の準備が大変だったし、あまりやったことがないのでうまくできなかったけど、イングリッシュ・アドベンチャーの人たちが優しく接してくれたり、みんなが「大丈夫？」などの声をかけあっていて、とても安心したし、楽しかったです。

3つ目は、中学生との活動です。最初、中学生と会った時は、みんなきんちょうして笑顔がなかったけどゲームを終えた後はみんな笑顔で仲良くなれたという実感がありました。

私は、この2日間を通じて学んだことは、「協力」や「絆」です。いつもの協力や絆とはちがう、他の学校も合わさってこそ得た「協力」や「絆」です。学校はちがうけれど私たちは、つながっていると思います。

ローロープス



パイレーツ



上郷小学校 山本 慶吏

ぼくたちのチームは、1日目にローロープスをやりました。木で自分の体をささえて渡るけど木がない場所は手をつかんでやりました。ほとんどの人が落ちて最初の場所にもどりました。みんながそこで苦戦して止まっている間はロープの上でジャンプして遊んでいました。ゴールした人は2人だったと思います。ほかの場所にも行きました。二人で手をつかんで、だんだん離れて行くという遊びでした。手をつかんで片方が落ちるともう一人も落ちるので足がすごくゆれている時も落ちないようにがんばりました。

津南小学校 金井 大良

ぼくは、みらい教室でとても成長したことやたくさんのお話を聞きました。その中でも1番楽しかった思い出は、ボルダリングでの出来事です。ボルダリングの途中でチームを集める仕事をまかせられて、心の中では「どうしよう・・・自信がない。」と思った時にボルダリングの先生が「ほらっ！頑張れ！できる。」など、はげましの言葉を言ってくれたおかげで、元気がつきました。ぼくは、人の言葉はとてもすごいパワーがあるんだと思ったし、先生がとても優しくかったです。

次に、みらい教室があって本当に良かったことは、最初、上郷の人たちとあまり話さなかったけどこの2日間とても仲良くなりました。

たくさんのお話があったことの話はありますが、この2日間とても変わって良かったと思います。

津南中学校 桑原 さやか

久しぶりに6年生と会って、とてもうれしかったです。パイレーツの説明をみんながしっかり自分でやっていたし、自分たちから積極的に話合っていて、とても良かったです。6年生があまり理解していないところは頑張ってジェスチャーするとか、今、使える自分たちが知っている単語を出しながら協力して説明できたのがとても楽しかったです。

いい思い出になりました。

※感想文の一部を抜粋し掲載させていただきました。



お知らせ

育ネットつなぐ事務局長として3年余りお勤めいただいた
嘱託指導主事 市川綾子氏が、都合により6月末で退職しました。
退職に当たり寄稿されましたので紹介します。

ありがとう
ございました。



新潟地震の思い出 ～災害は、忘れた頃にやってくる～

前 嘱託指導主事 市川 綾子

昭和39年6月16日、旧白根市立庄瀬小学校で掃除の準備に入った直後、校舎がぐらぐらと大きく揺れた。立ってられないくらいの揺れ方に、担任が両手を大きく開き、鬼のような形相で「逃げろ～～～!!!」と叫び、皆が夢中で駆け出した。今もその顔とお声、中腰の構えをはっきり思い出せる。大きく揺れる階段を踏み外さずに駆け降り、グラウンドに飛び出ることができたことは、今も奇跡のように感じられる。担任が私たちの前に現れた時は、心からほっとした。全員が無事だった。

教室の窓際で読書をしていた級友は、水槽の水がチャップン、チャップンと波打ち始め「あれ?」と思う間もなく、金魚が飛び出しそうになるくらいに揺れたと話していた。

NHKニュースで幾日も新潟市の石油コンビナートの火事が放映された。グラウンドに亀裂が入ったことと共に、鮮烈な記憶として残っている。

庄瀬小学校と庄瀬中学校は、堤防をはさんで校舎があった。当時、あの新潟地震で、年配の中学校男性教頭が余りの恐さに教務室の窓から飛び降り、脚を怪我したことが広まった。自転車で通勤できるようになられても、そのお姿は痛々しく感じられた。



あれから幾度か地震を経験したが、昭和39年の新潟地震を上回る規模の地震は新潟県ではない。予想するための科学技術の進歩も心強い。しかし、災害の恐さは、大抵は予告以上であることだ。だからこそ、日頃の避難訓練が重要だ。当地は津波の心配はないが、避難グッズの点検を怠らずにやっておかねばと思う。

それから長い時間が流れ、家族で訪れた2011・3・11後の岩手県石巻市。大川小学校の多くの児童、教師が犠牲となった現地で衝撃を受けた。児童たちが誘導された避難場所は、川沿いの平地だった。本能的に学校の裏手の山に必死に駆け上った男子児童は助かったことをドキュメンタリー番組で知った。兄の後を追いつけた妹は流された。

当日のテレビ映像で、車ごと海に流され、ぷかぷかと浮かぶカラフルな多くの車はまるでおもちゃのようだった。その残酷な映像を今も鮮明に記憶している。